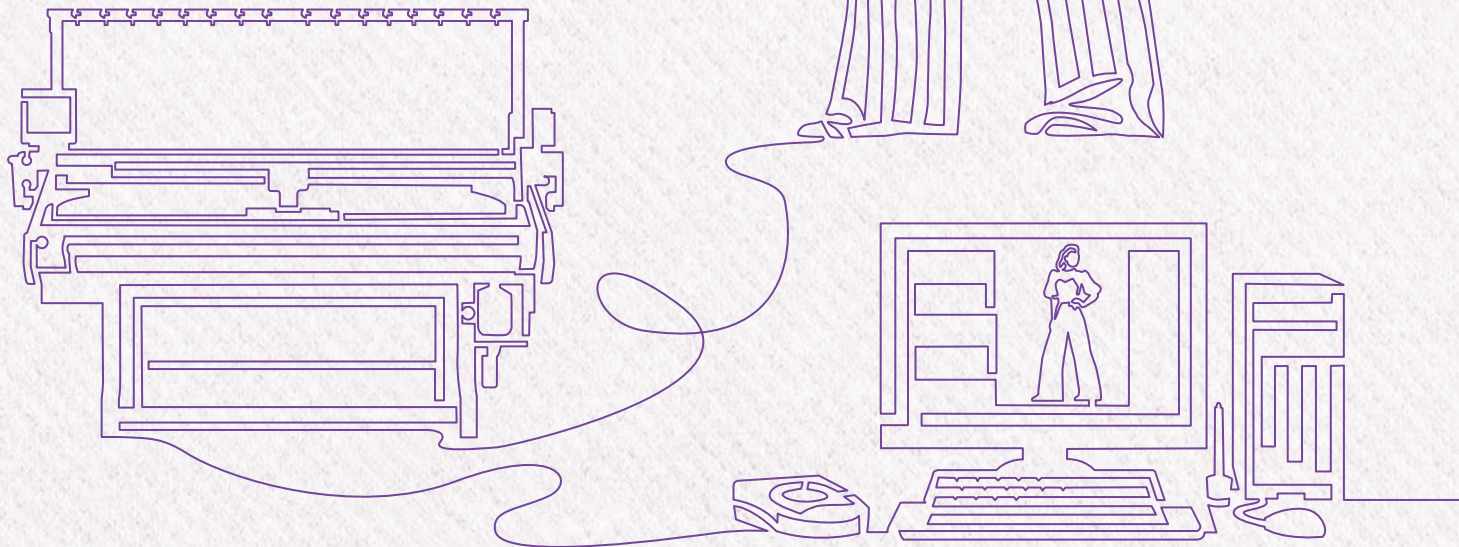


# 株主の みなさまへ

第57期 営業のご報告

2017年4月1日～2018年3月31日





好調な横編機事業が牽引し、過去最高の売上高を達成。新中期経営計画を通じてイノベーションを起こし続ける会社を目指します。

**Q1** 当期(2018年3月期)の主な取り組みと業績について説明してください。

**A1** 横編機事業の売上を中心に、大幅な増収増益となりました。

当期は、国内外のさまざまなユーザーの要望に応えるべく、各市場のニーズに合わせた製品・サービスの提供に努めるとともに、顧客に密着した提案活動を展開しました。特に主力ビジネスの横編機事業は、アジア市場を中心に前期(2017年3月期)後半からの高水準な受注ペースを維持し、業績全体を牽引しました。

この結果、当期の連結売上高は718億58百万円(前年同期比15.1%増)と、好調だった前期をさらに上回り過去最高となりました。営業利益については、増産効果による原価低減

代表取締役社長  
島 三博

などにより、149億5百万円(同32.4%増)となりました。また経常利益は、前期のような為替変動の影響が少なかったことなどから155億25百万円(同54.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益も過去最高の112億79百万円(同56.7%増)といずれも大きく伸ばしました。

当期は2015年に発表した中期経営計画「Ever Onward 2017」の最終年度でもありましたが、3年前に掲げた数値目標(売上高700億円・営業利益150億円・経常利益150億円、当期純利益100億円)を、ほぼ達成することができました。次期(2019年3月期)以降もこの勢いを維持・拡大し、さらなる飛躍を目指していきます。

## Q2 事業分野別の状況について説明してください。

## A2 ASEAN諸国と中国市場で横編機事業の売上が伸びました。

主力の横編機事業は非常に好調で、全体の販売台数は過去最高を達成しました。アジア地域では、欧米アパレル向け生産拠点であるバングラデシュやASEAN諸国で「SSR®」や「SVR®」を中心に販売が拡大したほか、中国市場でも国内

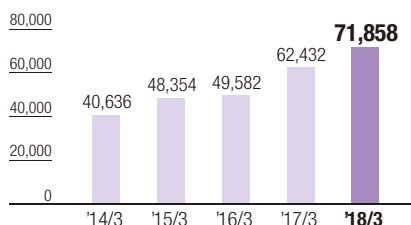
ファッション市場の活性化に伴い「MACH2®XS」をはじめホールガーメント®横編機の需要が高まりました。また、スポーツシューズ生産向けにコンピュータ横編機の活用が広がったことで売上を大幅に伸ばしました。欧州市場では、ファッション中心地のイタリアでもホールガーメント横編機や、高付加価値製品を編成できる「SRV®」「SIR®」などの上位機種を中心に販売が好調に推移しました。

デザインシステム関連事業では、「SDS®-ONE APEX3」が海外で堅調に販売を伸ばしましたが、国内アパレルの不振の影響などで微増となりました。また、自動裁断機「P-CAM®」も、国内向けを中心にアパレル分野以外へ販路を広げましたが、販売は伸び悩みました。

当期、全社一丸となって注力したのが、2017年11月に開催した「創立55周年記念イベント」です(詳細はP.9-10参照)。世界各国から1,000名を超えるユーザーを和歌山に招き、最新機種の展示やデモンストレーション、オリジナルデザインによるニットサンプル約500点の展示、バーチャルモデルを活用したファッションショーなどを通して積極的な提案活動を行いました。このイベントは受注拡大だけでなく、当社の提唱する「トータルファッションシステム®」を、多くのお客様に浸透させる効果も大きかったと捉えています。

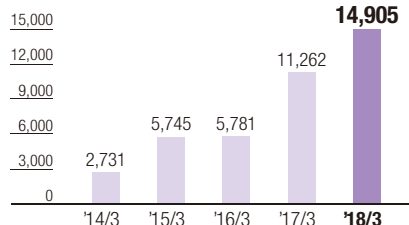
### 売上高

(百万円)



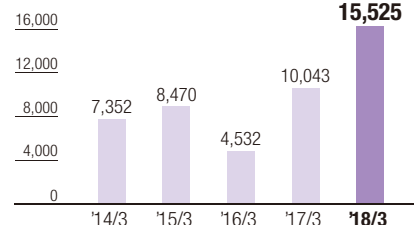
### 営業利益

(百万円)



### 経常利益

(百万円)





**Q3** 次期(2019年3月期)の主な取り組みと業績の見通しについて説明してください。

**A3** 各地域で技術者を育て、グローバルな成長を促進していきます。

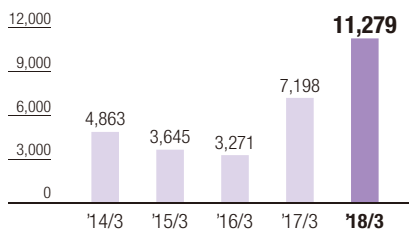
次期も引き続き世界各国・地域で、ユーザーに密着した提案活動を進めていきます。最重要課題である「ホールガーメント横編機の拡販」に向けて、ニットメーカーへの提案だけでなく、発注元である大手アパレルへの提案も強化し、中国で起こりつつある「無縫製化」への流れを世界各地で加速させていきます。また高機能であるホールガーメント横編機を扱える技術者の育成も重要課題です。今年4月には中国のニット生産地に技術者の教育機関を開設しており、今後は欧州

向けニットの生産地であるトルコにも開設する予定です。

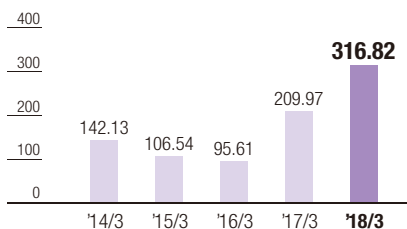
また、今年10月には、アジア最大の繊維機器展示会「ITMA ASIA+CITME 2018」が上海で開催されます。この機会を最大限に活用して、企画提案型・高付加価値化へのビジネスモデル転換を図る企業などを中心に、ホールガーメント横編機の導入メリットを積極的に訴求します。また、全生産プロセスを可視化できるシステム「Shima KnitPLM®」の提案にも注力し、複雑化してきている生産管理の面をサポートしていきます。

これらの取り組みにより、次期の連結業績は、売上高760億円、営業利益160億円、経常利益160億円、親会社株主に帰属する当期純利益115億円を計画しています。

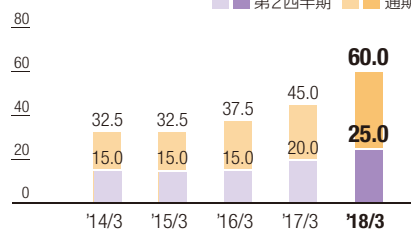
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



1株当たり当期純利益 (円)



1株当たり配当金 (円)



**Q4** 新中期経営計画と中長期へ向けた抱負をお聞かせください。

**A4** イノベーションを起こし続ける会社を目指し、新中期経営計画に取り組んでいきます。

当社は今年5月に第2次中期経営計画「Ever Onward 2020」を発表しました。今回の中期経営計画の骨子策定にあたっては、社内各部門にヒアリングを行うとともに、若手社員も含め経営層と部門間で徹底的な議論を行ったことで、社員の主体的な参加意識、計画実現へのモチベーションが大きく高まっています。

新中期経営計画の3年間は、長期ビジョン実現を見据えた「成長の加速」フェーズと位置付け、前中期経営計画の重点施策を継承する一方で、新たに「差別化戦略の推進と事業領域の拡大」「将来の成長に向けた積極的な投資の強化」という2つのメインシナリオを打ち出しました。

経営目標として、2020年度に売上高1,000億円を掲げましたが、目指すのは数字だけではなく、全ての社員が経営に参加するような意識を持って自由な発想でアイデアを生み

出し、主体的に行動する組織づくりです。開発部門はもちろん、生産部門や間接部門も含めた全部門で生産性・創造性を高めたいと思います。

**Q5** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A5** 成長の成果を株主の皆様に戻元し続けていきます。

当社は株主の皆様に対する利益還元を、経営の最重要課題のひとつに位置付けています。当期の株主の皆様への配当金については、好調な業績を鑑み中間配当金25円、期末配当金35円の合計60円(前期から15円増配)で実施させていただきました。次期からは連結配当性向25%を目安に、業績に連動した株主還元を行っていく方針です。

当社は経営理念「Ever Onward 一限りなき前進」のもと、世界のファッション産業に大きなイノベーションを起こすことができる製品・サービスの創出に挑戦し続けていきます。株主の皆様には、引き続き当社への温かいご理解とご支援をお願いいたします。

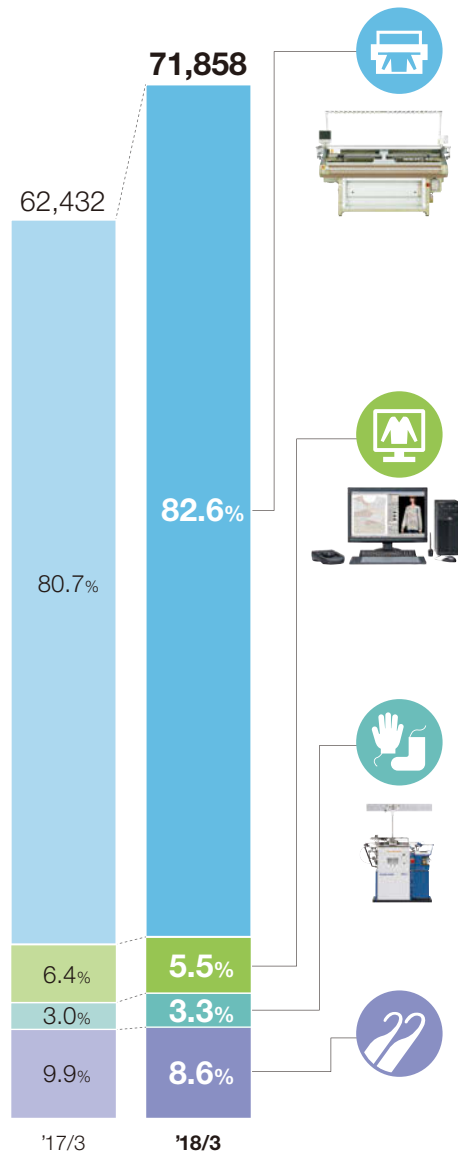
## 将来への展望

### サステナブルなモノづくりで、社会に新たな価値を創造

「創立55周年記念イベント」において、当社は「サステナブルなモノづくり」を前面に打ち出しました。当社はこれまで生産性・創造性の高い“消費地型生産”を実現する「トータルファッションシステム」を提唱してきましたが、「サステナブルなモノづくり」はそれをさらに拡張したものだと考えています。ホールゲーム横編機やデザインシステムは「資源を無駄にしない」という意味でサステナビリティに貢献できる製品です。今後もシマセキは、原材料から商品企画、開発、生産、流通、廃棄の段階まで、プロダクト・ライフサイクル全体を視野に入れた提案により、今までにない新たな価値を社会に創造していきます。

## 事業別売上高構成比

(百万円)



### 横編機事業

アジア市場では、バングラデシュやASEAN諸国において「SSR®」や「SVR®」などを中心に順調に販売が拡大しました。中国でも、国内アパレル消費の拡大に伴い、企画提案型・高付加価値生産への転換が進み、ホールガーメント®横編機「MACH2®XS」の導入が加速したほか、スポーツシューズ生産向けの販売も増加しました。イタリアでは、ホールガーメント横編機を中心に、上位機種が販売を伸ばしました。さらに中東のトルコも政情が改善した夏以降、設備投資が急速に回復し、「SVR」を中心に売上が伸長しました。これらの結果、売上高は593億69百万円(前期比17.8%増)となりました。

### デザインシステム関連事業

デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」は、ニット産業以外の業種へ導入が広がったものの、国内アパレルの不振の影響などから売上高は微増にとどまりました。自動裁断機「P-CAM®」は、自動車関連、家具関連、産業資材分野など、国内向けを中心に販路を広げましたが、売上高は前期に比べやや減少しました。これらの結果、売上高は39億36百万円(前期比2.1%減)となりました。

### 手袋靴下編機事業

大手ユーザーの設備投資が引き続き旺盛で、ファインゲージの手袋編機を中心に販売を伸ばしました。これらの結果、売上高は23億73百万円(前期比25.7%増)となりました。

### その他事業

メンテナンス部品やニット製品の販売などにより、売上高は61億79百万円(前期比0.6%増)となりました。

## 前中期経営計画(2015~2017年度)の成果と課題

2015年度から2017年度までの3か年を対象とする前中期経営計画「Ever Onward 2017」は、数値目標をほぼ達成することができました。ここにその成果と今後の課題をご報告いたします。

### 成果

- 目標数値の達成
- 差別化戦略機種(ホールゲーム横編機)の伸長
- 営業キャッシュ・フローの改善等による財務の安定化

### 課題

- 業績の横編機事業偏重の是正
- 生産・開発能力の更なる増強
- 売掛債権の削減

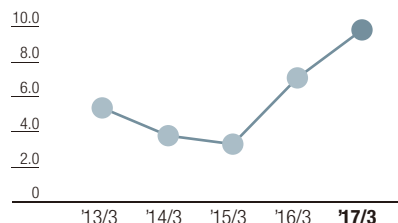
### 前中期経営計画の業績概要

(単位:億円)

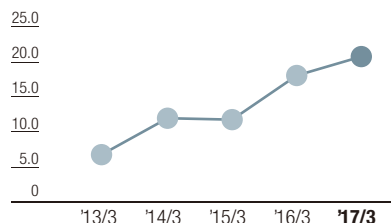
	2014年度 実績	2017年度 実績	増減率 2014→2017年度実績	前中計 目標	増減率 目標→2017年度実績
売上高	483	<b>718</b>	+48.6%	700	+2.7%
営業利益	57	<b>149</b>	+159.4%	150	△0.6%
経常利益	84	<b>155</b>	+83.3%	150	+3.5%
当期純利益	36	<b>112</b>	+209.4%	100	+12.8%
ROE	3.8 %	<b>9.9 %</b>	+6.1p	8.5 %	+1.4p

- 売上高・利益ともに大きく伸長し、当期純利益は過去最高を更新
- ROEの目標を達成し、資本効率も改善
- 営業利益率が着実に改善
- 営業キャッシュ・フローの資金増加が定着

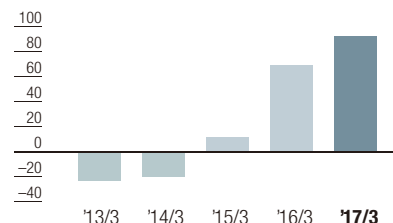
ROE (%)



営業利益率 (%)



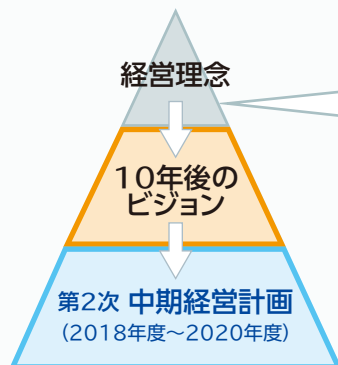
営業キャッシュ・フロー (億円)



# 新中期経営計画「Ever Onward 2020」(2018～2020年度)

新たに当社は、2018年度から2020年度までの3か年を対象とする中期経営計画「Ever Onward 2020」を策定しました。今後も、激しく変化する経営環境に対応し、世界に無い製品を提供し続けていきます。

## 新中期経営計画の概念図



## Ever Onward — 限りなき前進

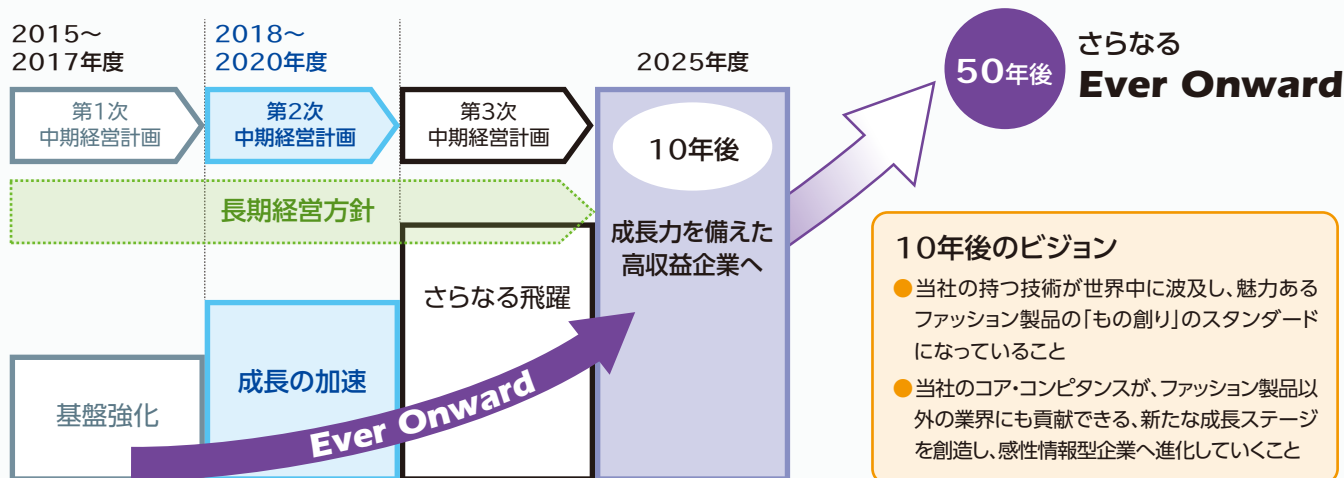
私たちは「愛」「創造」「氣」を合言葉に「Ever Onward — 限りなき前進」を掲げ、事業の持続的発展により、「世の中になくなくてはならない企業」になることを目指してまいります。

「愛」 私たちは、仕事を愛し、人を愛し、国や地域を愛し、地球を愛することを通じて、人や環境にやさしい「もの創り」を目指し、社会に貢献します。

「創造」 私たちは、高感度・高感性で創造力を発揮し、世の中に無い魅力的なものを創り出すことを目指します。

「氣」 私たちは、何ごとにも、成し遂げる“氣”を持って挑戦し、製品やサービスに魂を込め、未来を切り開いていきます。

## 新中期経営計画の位置づけ





# 「Ever Onward 2020」の概要

## 新中期経営計画の メインシナリオ

**1** 差別化戦略の推進と  
事業領域の拡大

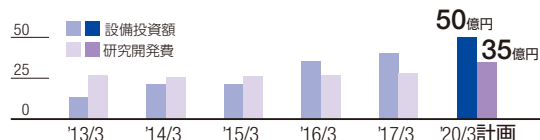
**2** 将来の成長に向けた  
積極的な投資の強化

### 重点施策

- ① 横編機事業の最強化
- ② 独自性をもった事業範囲の拡大
- ③ 収益構造の改革
- ④ 経営基盤の強化

### 投資計画

- 成長戦略の実施に向けた戦略的な投資
- 経営基盤を強化する効率的な投資



### 経営目標

顧客ニーズに応えるための積極的な投資を実施するとともにさらなる業績の向上と財務の健全化を目指す。

(単位: 億円)	2017年度 (実績)	2020年度 (目標)	増減率	
			2017年度 実績	2020年度 目標
売上高	718	1,000億円	+39%	
営業利益	149	250億円	+68%	
経常利益	155	250億円	+61%	
当期純利益	112	180億円	+60%	
ROE	9.9%	12%	+2.1p	

### 株主還元

#### (1) 利益還元方針

当社は株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、事業の持続的発展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを基本方針とする。  
そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行う。

#### (2) 株主還元指針(2018年度から3ヵ年)

**連結配当性向: 25%** を目安とする。

従来よりも利益成長との連動性を高め、連結配当性向25%を目安とする「株主配当」を実施するとともに、株価水準や資金の状況、市場環境などを総合的に勘案し、時機に応じて柔軟に「自己株式の取得」を行うなど、資本効率の向上にも努める。

# 国内外から多くのユーザーをお招きし、 「創立55周年記念イベント」を開催。 シマセイキが見据える 未来を提案しました。

2017年11月16～17日の2日間、和歌山ビッグホエールにて1,000名を超える国内外のユーザーを招いて盛大に開催された「創立55周年記念イベント」。ホールガーメント®横編機をはじめとする最新鋭機器やニットサンプル約500点を紹介した展示スペースのほか、“リアル”と“バーチャル”のモデルが共演するファッションショーなど、多彩な企画を通して「シマセイキが見据える未来」をアピールしました。



## シマセイキが目指す「サステイナブルなモノづくり」

今回の記念イベントでは、「シマセイキが目指すサステイナブルなモノづくり」に対するメッセージを強く発信しました。

これまで世界のファッション・アパレル産業は、生産や流通プロセスにおける廃棄ロス、リードタイムの長さから市場ニーズに即応しにくいなど、さまざまな課題を抱えてきました。

当社が提唱する「トータルファッションシステム®」は、ホールガーメント横編機とデザインシステム[SDS®-ONE APEX3]との連携による革新的なモノづくりを通じ、こうしたファッション・アパレル産業の課題を解決することを目指しています。社会の持続可能な発展と、地球環境の保全に貢献しながら、当社はこれからも世界のファッション・アパレル産業の課題に対して積極的に取り組んでいきます。



WHOLEGARMENT®



SDS ONE  
APEX3

**Industrial Renaissance**  
by TOTAL FASHION SYSTEM



最新コレクションによる華やかなファッションショー



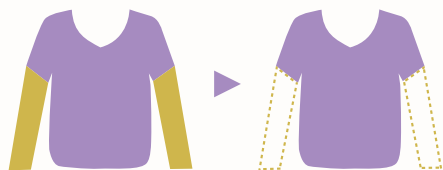
多様なジャンルの  
ニット製品を展示



2日間で1,000名以上のお客様が来場

## 生産工程や企画プロセスでの 材料ロスを大幅に減らす

さらに進化したホールガーメント横編機「MACH2®XS」では、新たに「2枚編み出し装置」を搭載することで、半袖などの編成時も“捨て編み”を減らし、生産工程での廃棄ロスを大幅に削減します。また、「SDS-ONE APEX3」は、高精度のバーチャルサンプルで企画・試作プロセスに要する時間を大幅に短縮するとともに、リアルサンプルの作製に必要な原材料も削減し、資源の節約に貢献します。



## 市場ニーズに即応するタイムリーな提案で 産業全体の生産性を高める

高精度のバーチャルサンプルは、画面上で確認できることから、デザイナーや企画会社、素材メーカー、ニット工場などのコミュニケーションの効率を飛躍的に向上させます。遠く離れた場所同士でも評価や商談がスピーディに行え、サンプル輸送などに要するエネルギー（CO<sub>2</sub>排出量）を節減できるだけでなく、市場が求める商品をタイムリーに提案・生産することにより販売機会の損失を減らし、適正在庫で産業全体の効率性を高めます。



リアルサンプル



バーチャルサンプル

画面上  
で確認

在庫の  
最適化

## 当期の取り組みハイライト (2017年4月1日～2018年3月31日)

### 2017年



4月16日 **CSR**

クラシックスポーツカーの祭典  
「ラ フェスタ プリマヴェラ 2017」に協賛



9月19日 **展示会**

「プルミエール・ヴィジョン」(パリ)に出展

11月16、17日 **創立記念**

和歌山ビックホールにて、  
「創立55周年記念イベント」を開催



11月28日 **展示会**

「JFW JAPAN CREATION 2018」(東京)  
に出展

## 多分野における貢献を表彰していただきました

### 当社の「全自動手袋編機(角型)」が 日本機械学会の「機械遺産」に認定されました。

当社の「全自動手袋編機(角型)」が、一般社団法人日本機械学会より2017年度の「機械遺産」に認定されました。

当社の会長である島正博が1964年に開発した「全自動手袋編機」は、シマセイキ創業の“原点”となった機械。指先から各指のつなぎ、手のひら、手首まで一体化した編成を全自動で実現した画期的な製品で、手袋メーカーの生産効率を劇的に向上させました。



### ホールガーメント®横編機「MACH2®XSシリーズ」が 省エネルギー機器として表彰を受けました。

2018年2月、ホールガーメント横編機「MACH2XSシリーズ」が、第38回優秀省エネルギー機器表彰において「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。従来のニットウェア製造プロセスで必要だった裁断や縫製の工程を不要にできるため、原料やエネルギーなどの資源の節約とCO<sub>2</sub>排出量の削減につながるものが高く評価されました。



優秀省エネルギー機器  
日本機械工業連合会会長賞  
\*特選機器 日本機械工業連合会



**MACH2XS**  
可動シンカー付き無縫製立体横編機

# 2017-2018

## 2018年



2月6日 展示会

「SHIMA CROSSTEX」(香港)を開催



2月16日 展示会

「第50回 大阪ミシンショー2018」に出展

3月17日 CSR

和歌山城清掃ボランティアに参加



3月31日、4月1日 CSR

「ロボカップジュニア・ジャパンオープン  
2018 和歌山」に特別協賛

会長・島正博に「旭日中綬章」、  
毎日ファッション大賞「特別賞」、  
ノースカロライナ州立大学「名誉科学博士号」が  
授与されました。

当社の会長である島正博が、2017年秋の叙勲において「旭日中綬章」を受章しました。また、同年11月にはファッション業界に大きく寄与した人物に贈られる第35回毎日ファッション大賞において「特別賞」も受賞。さらに同年12月には、米国ノースカロライナ州立大学から世界の繊維業界の発展に貢献してきた功績を評価され「名誉科学博士号」が授与されました。



「2017年(第35回)毎日ファッション大賞」  
表彰式／提供：毎日新聞社



# 株主様とのコミュニケーションの充実に取り組んでいます

## 株主総会后に工場見学を実施しています。

毎年6月に開催される定時株主総会の後、ご希望者を対象に工場見学を実施しています。工場で製品が作られていく過程を通して、当社事業を理解していただくとともに、社員の働いている姿から、当社の技術力やモノづくりへのこだわりを実感してもらおう機会としております。



株主総会後の工場見学会

## IRサイトで情報を発信しています。

IRサイトをご利用いただく株主・投資家の皆様の視点に立ち、当社の事業戦略や概況、今後の取り組みを分かりやすくお伝えできるようなコンテンツで、IR情報を発信しています。ぜひご覧ください。

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>



### IR担当者からのコメント

2017年度は、国内外を問わず多くの株主・投資家の皆様からお問い合わせをいただきました。

株主・投資家の皆様との対話において常に大切にしていることは、経営理念を伝えることです。直近の業績の話だけでなく、当社の

挑戦の歴史をご理解いただき、将来性に期待していただけるよう現状の取り組みについて報告してきました。

これからも、ご期待に添えるよう積極的なIR活動を展開していきます。

## 株主優待を通じて、ホールガーメント®製品の良さを実感していただいています。

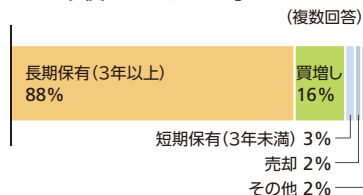
当社は株主還元の一環として、株主優待を実施しております。3月期の株主優待では、当社オリジナルのホールガーメント製品をお届けしており、その着心地や品質の高さを実感していただくことで、事業理解の一助としております。

※ご所有の株数により品物は異なります。

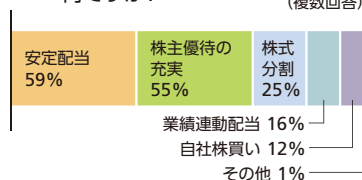


## 株主様アンケート集計結果のご報告

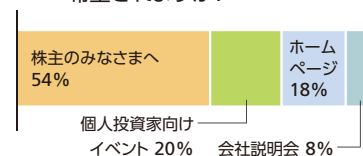
Q 当社の株式について  
今後どのようにお考えですか？



Q 株主還元に関して  
当社に期待されることは  
何ですか？



Q IR活動について、  
どのような情報の提供を  
希望されますか？



## 株主様から寄せられたご質問への回答

Q 長期保有株主への  
優待制度はありますか？ (50代・女性)



A 長期株主様へのご優待はすでに実施しており、毎年9月末日の株主名簿に、当社株式1,000株以上の株主として記載または記録され、保有継続期間が3年を超える株主様(同一株主番号で9月30日及び3月31日の当社株主名簿に連続7回以上記載または記録された株主様)を対象とし、現行の株主優待に加え、長期優待制度として「当社オリジナルカレンダー」を追加贈呈しております。

Q 米国への展開が知りたい。(80代・男性)



A 近年、米国においても生産回帰の動きがあり、消費地型生産を推進すべく営業活動を展開しております。また、アパレル業界だけでなく、小売業界などの展示会にも出展し、さまざまな潜在的なニーズを見出すため、多様な業種への提案を強化しています。ホールガーメント横編機とデザインシステムの連携によるオンデマンド生産は米国でも関心が高まってきております。米国での動きはまだそれほど大きなものではありませんが、今後さらに拡大していけるよう、積極的な取り組みを進めていきます。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	2018年3月31日現在	2017年3月31日現在		2018年3月31日現在	2017年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>113,533</b>	<b>105,736</b>	<b>流動負債</b>	<b>26,018</b>	<b>32,450</b>
現金及び預金	24,575	19,160	支払手形及び買掛金	4,466	5,220
受取手形及び売掛金	70,017	67,268	電子記録債務	1,325	2,457
その他	20,931	21,152	短期借入金	8,499	9,975
貸倒引当金	△ 1,989	△ 1,844	1年内返済予定の長期借入金	—	5,000
<b>固定資産</b>	<b>40,809</b>	<b>36,194</b>	その他	11,726	9,797
有形固定資産	23,514	21,821	<b>固定負債</b>	<b>4,833</b>	<b>4,600</b>
土地	11,392	10,962	リース債務	2,405	1,890
その他	12,121	10,858	その他	2,427	2,709
無形固定資産	3,596	4,146	<b>負債合計</b>	<b>30,851</b>	<b>37,051</b>
のれん	3,246	3,873	<b>株主資本</b>	<b>130,447</b>	<b>110,923</b>
その他	349	273	資本金	14,859	14,859
投資その他の資産	13,699	10,226	資本剰余金	25,867	21,724
投資有価証券	10,646	8,058	利益剰余金	89,978	80,480
その他	4,591	3,752	自己株式	△ 258	△ 6,140
貸倒引当金	△ 1,539	△ 1,583	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 6,969</b>	<b>△ 6,108</b>
<b>資産合計</b>	<b>154,343</b>	<b>141,931</b>	その他有価証券評価差額金	941	919
			土地再評価差額金	△ 7,003	△ 7,003
			為替換算調整勘定	△ 1,335	△ 250
			退職給付に係る調整累計額	427	226
			<b>新株予約権</b>	<b>—</b>	<b>55</b>
			<b>非支配株主持分</b>	<b>13</b>	<b>8</b>
			<b>純資産合計</b>	<b>123,491</b>	<b>104,879</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>154,343</b>	<b>141,931</b>



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	前 期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
<b>1 ▶ 売上高</b>	<b>71,858</b>	<b>62,432</b>
売上原価	38,419	33,384
<b>売上総利益</b>	<b>33,438</b>	<b>29,048</b>
販売費及び一般管理費	18,532	17,786
<b>2 ▶ 営業利益</b>	<b>14,905</b>	<b>11,262</b>
営業外収益	1,399	1,078
営業外費用	779	2,296
<b>3 ▶ 経常利益</b>	<b>15,525</b>	<b>10,043</b>
特別利益	54	168
特別損失	136	232
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>15,443</b>	<b>9,979</b>
法人税、住民税及び事業税	4,214	2,084
法人税等調整額	△ 53	696
当期純利益	11,281	7,198
非支配株主に帰属する当期純利益 又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	2	△ 0
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>11,279</b>	<b>7,198</b>

### POINT

#### 1 ▶ 売上高

主力のアジア市場でコンピュータ横編機の販売が拡大したことで、売上高は718億58百万円(前期比15.1%増)となりました。

#### 2 ▶ 営業利益

売上高の増加や増産効果による原価低減などにより、営業利益は149億5百万円(前期比32.4%増)となりました。

#### 3 ▶ 経常利益

期末にかけて円高の影響はありましたが、為替予約などリスクヘッジが奏功し、経常利益は155億25百万円(前期比54.6%増)となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	前 期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで
<b>4 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>9,397</b>	<b>6,988</b>
<b>5 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 4,843</b>	<b>△ 1,241</b>
<b>6 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,731</b>	<b>2,470</b>
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 348	171
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	5,937	8,388
現金及び現金同等物の期首残高	18,286	9,752
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	—	145
現金及び現金同等物の期末残高	24,223	18,286

#### 4 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加や仕入債務の減少などによる資金の減少はありましたが、税金等調整前当期純利益が154億43百万円と高水準にあったことや減価償却費の計上などにより、93億97百万円の資金の増加となりました。

#### 5 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の払戻や投資有価証券の売却による収入などがありましたが、有形固定資産の取得や投資有価証券の取得による支出などにより、48億43百万円の資金の減少となりました。

#### 6 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期及び長期借入金の返済や配当金の支払いによる支出などがありましたが、新株予約権の行使による自己株式の処分による収入などにより、17億31百万円の資金の増加となりました。

## 会社概要

### 会社概要 (2018年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所  
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.  
 本社 和歌山県和歌山市坂田85番地  
 創立 1962年2月4日  
 資本金 148億5,980万円  
 従業員数 1,324名(連結1,931名)  
 事業内容 コンピュータ横編機  
 デザインシステム  
 自動裁断機  
 手袋靴下編機 などの開発、製造、販売



本社ビル

### 役員 (2018年6月27日現在)

地位	氏名	担当及び重要な兼職
代表取締役会長	島 正博	
代表取締役社長	島 三博	執行役員兼経営企画部担当
専務取締役	梅田 郁人	執行役員営業本部長兼 トータルデザインセンター担当
常務取締役	有北 礼治	執行役員資材部長兼 生産本部担当
取締役	南木 隆	執行役員経理財務部長兼 総務人事部、管理部、物流部担当
取締役	西谷 泰和	執行役員開発本部長
取締役	西川 清方	執行役員営業統括部長
取締役	一柳 良雄	株式会社一柳アソシエイツ 代表取締役&CEO / キャスター
取締役	残間 里江子	株式会社キャンディッドプロデュース 代表取締役社長 / プロデューサー
常勤監査役	植田 光紀	
常勤監査役	戸津井 久仁	
監査役	新川 大祐	北斗税理士法人 代表社員
監査役	野村 祥子	堂島法律事務所 パートナー弁護士

(注) 1. 取締役 一柳良雄、残間里江子の両氏は、社外取締役であります。

2. 監査役 新川大祐、野村祥子の両氏は、社外監査役であります。

### 連結子会社 (2018年3月31日現在)



## 株式概要

### 株式の状況 (2018年3月31日現在)

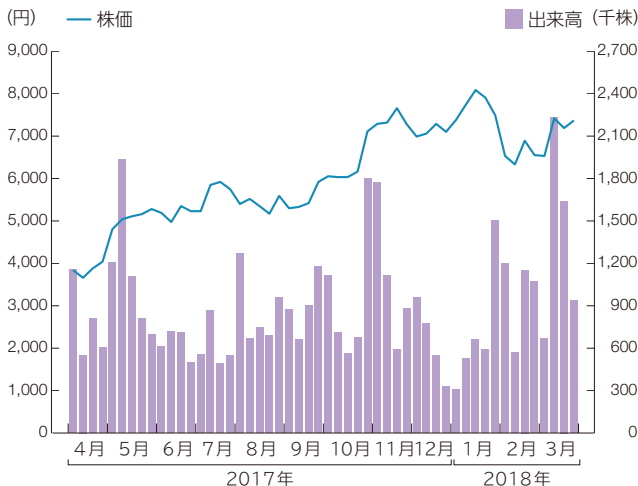
- ①発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ②発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③株主数…………… 11,396名
- ④大株主

(千株未満切り捨て)

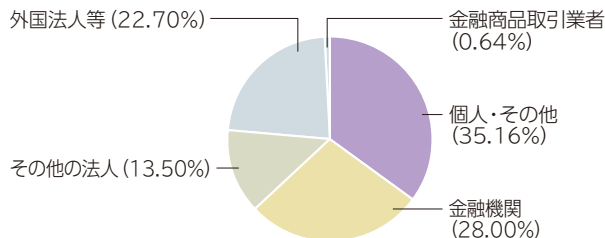
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
和島興産株式会社	4,020	11.01
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,241	6.14
株式会社紀陽銀行	1,472	4.03
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,449	3.97
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,432	3.92
島 正 博	1,070	2.93
島 三 博	1,061	2.91
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.41
合同会社和光	780	2.14
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY	715	1.96

- (注) 1. 持株比率は、自己株式(87千株)を控除して計算しております。  
2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で商号変更して、株式会社三菱UFJ銀行となっております。

### 株価と出来高の推移



### 所有者別分布



### 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日  
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告  
下記当社ホームページに掲載  
(<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

#### (ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地  
TEL(073)471-0511(代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、WHOLEGARMENT、ホールガーマント、MACH2、SIR、SSR、SVR、SRY、SDS、SDS-ONE、SDS-ONE APEX、P-CAM、Shima KnitPLM、TOTAL FASHION SYSTEM、トータルファッションシステムは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



この報告書は環境にやさしいベジタブルインキを使用しています。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。